

# 岐阜市新庁舎の防災機能に関する検討会のご意見

## ■災害時の市役所の役割について

- ・ 災害時の市役所は、「災害対応の指揮命令」「被災市民支援」および「災害関係の調整窓口」が最重要業務となります。被災市民支援業務（被害認定・罹災証明の発行・住民票の発行）を迅速に展開するために、避難者対応は指定避難所の役割とし、市役所がすべき役割を損なわないよう、庁舎内部への避難者の受け入れを計画すべきと考えます。
- ・ 例えば、救援業務（避難者、ボランティア対応）を隣接する「ぎふメディアコスモス」で担い、新庁舎は災害対応（指揮命令、市民災害関係窓口、自衛隊・関係機関の受け入れ等）を最優先するなど、地域防災計画等において役割を明確にしておく必要があると思います。
- ・ 災害時には、多くの市民が避難してくることが予測されますが、平時の防災フェスタ等の機会を活用し、市民に災害時の庁舎の役割について周知を図ることが重要であると思います。

## ■災害対策本部室および周辺諸室について

- ・ 災害対策の諸室が6階から8階に集約されており、防災面に配慮された計画であると思います。  
《参考》  
特に8階に基幹設備類を集約するプランは、水害対策やエネルギーの効率性、機器更新作業の観点から非常に有益であるとの意見を頂いています。
- ・ 災害対策本部事務室は、災害情報を集約する重要な諸室であるため、導入設備を充実させるとよいと思います。また、災害時の災害対策本部室や同事務室の従事者の動線を考慮して平面計画を進めることをお奨めします。
- ・ 支援団体（自衛隊等）の活動スペースにおいて電源等の不足が懸念されるため、大会議室等の非常用コンセントやLAN配線等の計画を慎重に行うべきです。

## ■災害時のスペース活用について

- ・ 災害時には、市民の他に、支援団体（自衛隊、内閣府、国土交通省、他市町村等）やマスコミ関係者など、多くの方が市役所へ集まります。災害窓口業務、支援団体の滞在、災害関係情報の提供などの対応スペースやその動線を、事前に計画しておく必要があります。
- ・ 災害車両（市民の自家用車、自衛隊の大型車両、マスコミ中継車両等）の駐車スペースが多く必要となります。立体駐車場やみんなの広場カオカオのみで不足する場合には、西側の通路（せせらぎの並木テニテオ）の活用も一案であり、車両の動線計画を含めて検討しておくとうよいと思います。
- ・ 災害時には、屋根付きのスペースが重宝されるため、屋外テラス（軒下部分）や立体駐車場を有効に活用することが望まれます。

## ■熊本地震を受けて

- ・ 熊本地震では、非常用照明のある庁舎等に多くの市民が避難してきました。
- ・ 避難者を庁舎内に受け入れた市町村では、多くの職員が避難者対応に追われ、災害関連の証明や仮設住宅建設といった本来の業務が遅れていることが課題となっています。

## ■その他

- ・ 広場の防災設備の検討においては、地震時と浸水時を分けて整理することが望ましいと考えます。